

阿部裕和議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。〔2番 阿部裕和君登壇〕

○2番（阿部裕和君）

おはようございます。みらい創造クラブ、阿部裕和でございます。発言通告書に基づき、質問をさせていただきます。

1、介護現場の環境保全について。

全国的にも高齢化社会が進み「2025年問題」「2035年問題」と社会問題として盛んに提起されています。そんな中、介護現場では人材不足によるサービス低下や労働環境の悪化による離職率の上昇、経営状態の悪化が危惧されています。

公益財団法人介護労働安定センターの調査（令和元年10月実施）によると69.7%の介護施設が慢性的に職員の不足を感じており、訪問介護員に至っては81.2%の事業所が職員不足と答えています。

以下、伺います。

(1) 現在、糸魚川市の介護の現場においても十分な人材が確保できていません。今後ますます人材不足が懸念されますが、糸魚川市として支援策のお考えはありますか。

(2) 介護はやりがいがあり、誇りの持てる仕事であります。高齢化が進む糸魚川市においても重要な職種であり、担い手の育成・定着が必要不可欠であります。しかし、体力的、精神的にもきつく、賃金的にも恵まれていない状況であります。職場の環境保全として糸魚川市の考えを伺います。

2、情報発信の効果について。

(1) 定期的な紙媒体での情報発信は変わらず必要であります。それに加えSNSでの素早い発信が重要と考えます。また、当市公式のツイッターが2017年12月から更新されていませんが、今後の運営や現在活用しているSNSについて伺います。

(2) 糸魚川市も観光にまつわるテレビ放映がされるようになりましたが、肝腎の市民がその放映を見逃してしまった、放映があることを知らなかった、という声を聞きます。糸魚川市としてテレビ局や報道機関と連携を図り、ホームページやSNSでテレビ放映の事前告知をすることは可能か、伺います。

(3) アフターコロナに備え、市民だけでなく市外への観光などの情報発信の準備が必要ですが、糸魚川市にとってSNSの活用で重要な点は何であるか、考えを伺います。

3、官製談合事件について。

都市政策課職員が官製談合防止法違反などの疑いで逮捕されました。なぜこのようなことになったのか、伺います。

以上、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

阿部議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、介護職を目指す学生への修学資金貸与をはじめ、資格取得や研修受講費の助成を実施しており、引き続き人材確保に取り組んでまいります。

2 点目につきましては、コロナ禍においてエッセンシャルワーカーとして改めて重要な職業であると社会的にも再認識されたところであり、職場環境の向上につながる制度改正について、国へ要望してまいります。

2 番目の 1 点目につきましては、生活応援アプリの導入等により、ツイッターの更新は止まっておりますが、多くの方への情報の拡散が期待できることから、今年度導入予定のLINEとともに活用を検討してまいります。

2 点目につきましては、現在ホームページにより事前告知をしておりますが、今後はSNS等も活用し、情報発信してまいります。

3 点目につきましては、受け手が欲しい情報を適時的確に発信することが重要だと考えております。

3 番目につきましては、今後の裁判や第三者委員会において明らかになるものと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2 番（阿部裕和君）

市が糸魚川市の介護施設を対象に行った令和2年4月1日の介護保険事業所アンケート集計値の調査結果では、76の事業所が回答されています。そのアンケートでは、正規職員、非正規職員、パート職員を合わせた介護職員全体の就職人数が91人、離職人数が50人との結果が出ていますが、離職人数の中には定年退職での離職も含まれているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

おはようございます。お答えをいたします。

市から事業所に対するアンケートの設問上は、離職とお聞きをしておりますが、その後の質問の中で、離職理由をお聞きする中には、定年による退職は含めておりません。市といたしましては、退職を除く離職の人数であり、そのように結果を把握しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2 番（阿部裕和君）

定年退職での離職人数が含まれていないのであれば、この人数よりも増して人材が介護職のほうから離れていることが考えられます。

また、このアンケートの中では、勤務している職員の年齢構成のほうが書かれているのですが、就職者、離職者の年齢構成のほうは把握されているでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

回答いただいております事業所様に過度なご負担にならないよう、現在、簡易な設問内容でしております。現在の設問におきましては、就職また離職者ごとの年齢構成までは細分化した形式とはなっておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

今後、就職や離職のほうの年齢構成も把握することで、より詳細なデータになるかと思いますが、そのような項目を追加することのお考えはありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

特に離職につきましては、その理由も含めまして、どのような年代の方が、どのような理由で職を離れておられるのかを把握することは、離職を食い止めるための事業者側の対策にもつながりますし、市の施策上の重要なポイントになるものと考えております。

事業所のご負担にならない範囲で、設問内容の工夫をしていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

ぜひ、より詳しく解析していったほうがよいかと思っておりますので、ぜひよろしく願いいたします。

介護の現場は慢性的な人材不足であります。人材不足の理由の一つとして、賃金の低さというのにも影響しているかと思っております。厚生労働省の平成30年賃金構造基本統計調査では、介護職の平均年収が340万円というふうになっており、全産業の平均と比較しても低い水準となっております。コロナ禍の中、改めて医療従事者をはじめ介護従事者も、人々の生活の中で必要不可欠な労働者という意味であるエッセンシャルワーカーとして注目されております。

コロナ禍の制限など、様々な自粛も重なり、ストレスがたまっていると現場のほうから声をお聞

きいたします。市といたしましては、どの程度把握しているのでしょうか。また、何か改善のお考えはありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

賃金の水準につきましては、議員ご指摘の統計調査におきまして、全産業の平均との比較で有資格であるケアマネジャー、介護支援員でございますが、こちらで約8割程度、一般の介護職員で約7割程度となっております。

ただ、この介護報酬では、従事者の処遇を改善するための報酬の加算制度というのがあり、加算の支給方法につきましては、基本給、また手当、一時金のいずれの方法でもよいとされていることや、こうした賃金に対するデータは、新潟県、また糸魚川市に限った統計がないことから、市内の事業所における賃金水準につきましては、詳細な実態は把握していないというのが実情でございます。

また、先ほどコロナ禍のお話がありましたが、職務の内容上、近い距離での身体的な接触も多く、感染への不安、また、自らが感染源になってしまうことへの不安な声もお聞きしております。

さらには、利用者の感染不安から、例えばデイサービスをホームヘルパーに切り替えるなど、サービスの調整にも大変なご苦労があるものと認識をしております。

こうしたことを踏まえまして、市では、昨年度、介護の従事者に対しまして、慰労金の支給も含め、福利厚生に取り組む事業所への支援制度も実施しており、職員の方が抱えるストレスの軽減につきましては、今後も状況に応じて検討してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

ぜひ様々なことに取り組んでいってほしいと思います。

また、糸魚川市でも介護従事者確保、資質向上のため、支援事業を行っていますが、アンケートの項目の中にも、市が行っている支援事業に対して、「役立っている」、「大いに役立っている」との2つの回答が約5割、「役立ってはいるが、制度の見直しが必要」「役立っていない」との2つの回答が約5割と結果が出ています。

過去を遡ってアンケート調査のほうを見させていただいたんですが、各事業所の回答で、「制度の見直しが必要」、「役立っていない」との回答が年々増えている傾向にあります。

現在、市では介護従事者修学金貸与事業、介護人材育成支援事業などを行っていますが、この結果を踏まえ、各事業所の声を聞きながら、支援策を練り直すことが必要と考えますが、お考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

現在、市ではこれまでに各種支援制度を実施しているところであります。資格の取得につきましては、取得済みの方が増えてきたことや、近年の利用者数は減少傾向にあるほか、研修の受講につきましても、受講生の減少や、このコロナ禍で市内や近隣での研修機会が減っているといった状況もございます。

今年度におきましては、一定期間、介護現場を離れた方、資格を持ちながらも離れた方の再雇用を支援する制度や、市内で資格取得のための研修を行う事業所に対しての支援制度も新たに設けまして、対策を強化したところであり、引き続き事業所のご意見もお聞きしながら、効果が上がるよう、制度のよりよい運用に努めてまいります。

また、そのほか、介護職のやりがいであるとか、魅力もしっかりと市民の方々に伝えてまいりたいというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

ぜひ周知のほう、よろしく願いいたします。

そのアンケート調査の中では、毎年5つ程度の事業所が、市が行っている支援事業の存在を知らなかったというふうに答えていますが、その理由は何かあるのでしょうか。周知の仕方や方法に問題はなかったか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

事業所の周知につきましては、これまで事業所数も多いことから、電子メールによりまして制度の要綱であるとか、チラシ等によりまして周知をしております。電子メールの場合には、見落とされる可能性もあることから、事業所内に例えばポスターを掲示をしていただくとか、回覧をしていただくなど、従事者の方から直接目にさせていただくようなチラシ、ポスターの製作など、周知方法につきましても、改善に努めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

よろしく願いいたします。

このアンケートは、あくまでも事業所に向けたアンケートであると受け止めております。介護の現場では、心身ともに体調を崩され、休職中の職員もおられるというふうにお聞きしております。

精神的負担の軽減、そしてまた、個人の声を聞くという点でも、カウンセラーの方を派遣するのも一つかと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

介護職員の皆様におかれましては、身体的負担のほか、日々の介護業務におきまして、さらに昨年からはコロナへの対応ということで、精神的な負担も大きいものと認識をしております。精神的またメンタルヘルス等の対応は、事業所ごととなる部分もありますが、事業所の規模によりましては困難な場合もあろうかと思えます。

介護職員の精神的な負担的な軽減につきましては、市としましてもよい手法がないか検討してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

ぜひ現場の声もお聞きできるような仕組みになればいいなというふうに思っております。

また、介護人材の確保に効果的な支援策や解決は、なかなか見出しづらいとは思いますが。人材確保の前段階として、学生の時代から介護に触れるということがとても重要であるかと私は考えております。私自身も中学生の頃から介護施設にボランティアに行かせていただいて、そのまま高校卒業後、介護施設に就職したという経緯があります。

現在、市として、小学生や中学生の頃から介護に触れる機会やボランティア活動を経験するなどの啓発活動は行っているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

まず、中学生向けに対しましては、昨年度からキャリアフェスティバルの中におきまして、介護事業所の紹介というところで、職員の方から機器を使って、こういった今介護の現場は活動しているといった紹介もしております。

そのほか、市内の一例を申し上げますと、青海中学校の総合授業の中で、近隣にあります特別養護老人ホーム、そちらのほうに平成30年からボランティアとして生徒が行きまして、介護とはと、また車椅子の扱い方、また、入所者との触れ合いの場を設けるような機会を設けているところであります。

昨年はコロナ禍の中で、なかなかそういったことができませんでしたが、新聞等にもご紹介されておりましたが、介護用のガウン、エプロンですね、そちらを中学生が作って、その特別養護老人

ホームに届けるといったような交流の中で、介護を身近に感じてもらうといった取組も行っております。

そのほか、社会福祉協議会のほうでございしますが、そちらのほうでもサマーワークボランティアといたしまして、手話であるとか、車椅子の介助、また、参加者がお互いに食事の介助をし合うなどといった、介護と申しますか、福祉の入門的な部分を小学生6年生以上を対象として行っているところでありまして、こちらも昨年、コロナでできませんでしたが、今後、継続していきたいというふうに伺っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

とてもよいことだと思いますので、ぜひ、今限られた事業所と小学校や中学校だけの活動になっているかと思うので、ぜひその輪が広がればよいと考えております。ぜひ取組のほうをよろしくお願いいたします。

続きまして、先ほどもお話しされたキャリアフェスティバルのほうに参加していただく、事業者が参加するというのが、すごく効果があるなあというふうに考えております。現在、何社ほどの事業所が参加されているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

昨年度実施したものを見てもと、介護の事業所で2事業所ですね、また、障害福祉の関係で2事業所から参加をいただいております、今年につきましても10月の開催に向けまして、現在、介護事業所へ参加の声かけを行っているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

昨年は介護事業所が2者、障害のほうも2者ということで、アンケートによると、76の事業所というふうに、糸魚川にはたくさん事業所があると思うんですけど、ぜひ仕事、人材が足りないと言っている中であれなんですけど、将来を見据えた中で、たくさん参加してもらえようかならばいいなと思っております。ぜひお願いいたします。

また、2025年には、全国で43万人、そして2035年には79万人を超える介護士の人材不足が予想されています。当市においても、重大な課題であると考えます。米田市長の公約に地域医療の充実というのを掲げておられます。当市においても、医療と介護の連携が重要になってくるかと思いますが、市長の考え、ぜひお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

当市はやはり高齢化が進んでおる市でございますので、やはり介護というのは切っても切れない当市の課題であると思っております。それについてはしっかりと対応していきたいと思っております。

いろいろな課題がございますが、国のほうにもそういった要望も上げていながら、当市の介護水準のレベル向上に尽くしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

ありがとうございます。人口の半数が高齢者という糸魚川市であります。地域包括ケアシステムの構築の取組の一つでもあります医療と介護の連携を図り、市民の方が安心して暮らせるまちづくり、よろしく願いいたします。

また、介護現場では、介護従事者が笑顔で働けるという環境であることが、お年寄りに安全に安心して利用してもらえるということに直結していると考えています。これからも安定したサービスの提供のサポートをよろしく願いいたします。

続きまして、2番の情報発信の効果についてお聞きいたします。

今年度中にLINEを活用した情報発信が開催されるということなんですが、有効的な活用を期待しております。

LINEは安心メールの代わりになるのでしょうか。安心メールは引き続きやりつつ、LINEもということでよろしいのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

おはようございます。お答えいたします。

LINEなどにつきましては、安心メールも併用して使う今方向で検討しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

現在、糸魚川市で保有している公式のSNSのアカウントは、何がありますか、お聞きいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）



渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

市では、ツイッターとY o u T u b eのアカウントを持っておりますが、先ほど市長答弁にございましたように、ツイッターについては現在、休止をしているところでございます。

今年度予定しておりますL I N Eの開設後に再開ができるよう、現在、検討を進めているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

ぜひ積極的に使って、活用して、情報発信のほうをしていただきたいと思いますと考えております。

先ほど答弁でもありましたツイッターやY o u T u b eをはじめ、インスタグラム、フェイスブック等の様々なSNSのほうがあります。各種SNSの日本国内でのアクティブユーザー数、常に活発的に使われている方の数と特徴について少し説明をさせていただきます。

ツイッターは20代から40代の利用者の方が多く、国内で4,500万人利用されています。写真や動画の投稿もできますが、最大の特徴といたしましては、1つの投稿で140文字以内にテキストを収めなければならないということと、ほかのSNSに比べ拡散性に優れているということです。

インスタグラムは20代から40代の利用者が多いです。特に女性の利用者が多く、3,300万人が利用していて、こちらはテキストだけの投稿はできず、必ず写真や動画をつけて発信というのが特徴です。また、ユーザーの方がハッシュタグを使って検索して情報を得ることも多いです。

フェイスブックは、40代から60代の利用者が多く、2,600万人の方が利用していて、ほかのSNSに比べ、実名で登録されているユーザーが多いのが特徴であります。

Y o u T u b eは6,500万人の方が利用していて、動画の発信に特化していることが特徴であります。また、最近では、動画時間が短く、分かりやすいという動画が好まれているようです。

このようにそれぞれに特徴があり、その特性に合わせて情報発信していくことが、より効果的であると考えております。市といたしましては、それぞれの利用者層、特性などは把握していますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

ジオパーク、観光、移住・定住等、それぞれ所管する部署では、それぞれのSNSを活用した情報発信を行っておるところであります。配信する内容ごとにターゲットを定め、有効に発信して

いくために、それぞれのツールの特性を把握していることが重要であると考えており、市の情報を配信する立場といたしましても、今後さらに理解を深めて、そのように取り組んでいかなければいけないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

ぜひ把握して、情報発信のほうをよろしく願いいたします。

糸魚川市にはジオパークをはじめ海、山、川とインスタ映えするスポットが多くあると感じております。神奈川県三浦郡葉山町という自治体では、2015年の6月に町公式のインスタグラムを開設し、一般利用者の力も借りながら、町の情報発信を推し進め、町の活性化につながったという成功事例があります。葉山町では、「#葉山歩き」というハッシュタグを定着させ、現在では町の人口を超える3万5,000人の方にフォローされるアカウントに成長しております。

そのことを踏まえ、ぜひ当市でもインスタグラムを開設し、インスタグラムを利用している市民をはじめ、一般の方に呼びかけを行い、市内の景色や風景の写真を投稿する際に、例えばであります、「#糸魚川散歩」というようなハッシュタグとともに投稿してもらうことで、自然と官民連携して糸魚川の発信を行えると考えております。たくさんの可能性を持っているインスタグラムの開設、お考えはありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

今ほどご提案のありました葉山町のインスタグラムにつきましてですが、拝見をさせていただきました。海とか富士山とか、美しい写真の投稿によりまして、町の魅力を発信されておるといのがよく分かっております。また、フォロワーからも写真を集めるなど、官民一体で町を盛り上げているなというのを感じております。

当市におきましては、既にインスタグラムを活用している庁内の部署等もございますので、そちらとも連携を取りながら、今後の市としてどのように活用していくか、検討を進めてまいりたいと思いますし、進めるに当たっては、官民一体となった連携が取れるように検討してまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

庁内での連携ということで補足をさせていただきます。

商工観光課では、外国人観光客向けといたしまして、今、国際交流員1名が配置されておりますけれども、昨年度からインスタグラム、外国人観光客向けのインスタグラムを開設しておるところで

あります。

また、それとは別に、糸魚川ジオパーク協議会でInstagram、ツイッター、YouTubeチャンネル等を持っておりますし、別団体ではありますが、市の観光協会においても、フェイスブックとInstagramを運用しているところであります。

今後につきましても、これらを含めまして、有効な情報発信に努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

外国人向けや観光のほうでInstagramのほうがあるということなんですが、市として運営していくということもすごく重要かと思えます。市が責任を持って情報を発信するという点では、それが一番いいのかなというふうに考えております。

このSNSを使ったというのは、交流人口の拡大や移住促進のほうにもとてもつながっていくことだと考えております。現在、運用されていないツイッターですが、拡散性に優れていますので、市外への発信、これも交流人口の拡大にすごく効果的だと思えます。ぜひInstagramの開設、ツイッターの再活用、合わせて取り組んでいただきたいと考えております。

また、糸魚川駅自由通路のデジタルサイネージのほうを活用した情報発信も有効だと考えています。現在企業、コロナ禍であれだとは思いますが、現在企業や一般の方などの利用はどの程度あるのでしょうか。また、市といたしましては、どのように利活用されていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

自由通路のデジタルサイネージにつきましてですが、市で主催、共催をするイベントの告知や、新型コロナウイルス感染防止への呼びかけ、当市へ新幹線でお越しになられる方への歓迎等を放映しておるところでございます。また、企業・一般の利用につきましては、令和2年度であります、1件ございました。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

ぜひ、なかなか情報を発信することがないというふうに思われるかもしれませんが、市で取り組んでいる市民の方に周知してほしい、市外の方にも見てほしいという情報、駅の自由通路、新幹線も通ります、在来線を使われる方も多くいますので、ぜひ積極的に活用していくことが、町の発展にもつながると思います。ぜひ取り組んでいってください。

私自身も、私が企画している「復興の花」という音楽イベントを開催する際に、駅自由通路のデジタルサイネージを使わせていただきました。宣伝、告知の効果はどれほどなんだろうと思っていたんですけども、予想以上に効果があり、ふだん駅に行かないような人たちもうわさで聞いて、私もツイッターやInstagramのほうで、駅で流れていますというふうにお知らせをしたら、ふだん行かないような友人も、行って見て来たと言って写真を撮ったりというのもあったので、それもまた町がにぎやかになるかなと思います。ぜひ活用していただきたいと思います。

それぞれのSNSのプラットフォームの特性を理解して、この情報は誰に向けて発信しているのか、誰に届けたいというのをしっかりイメージしながら発信していくことが大切だと考えております。引き続き、確かな情報発信のほうをよろしく願いいたします。

次に、テレビ放映に関しての質問ですが、各テレビ局からの取材の確認や放送の日時や内容などの連絡は、その都度と言いましょうか、あるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

市で情報を提供したり、取材に協力した番組等につきましては、放映日が決まったときに、報道機関からは連絡はいただいております。それにつきましては、ホームページ等で周知をしているところがございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

それ以外のテレビ放映も多々あると思います。今までに青海地域の田海ヶ池の水を抜いて、外来生物を駆除する番組であったり、能生地域の甘エビや越の丸なすの紹介や、糸魚川の真柏を幻の真柏として紹介されるなど、このほかにも幾つものテレビ番組に糸魚川に関わるものが取り上げられてきました。

これらの放送については把握のほうはされていたのでしょうか。また、市民のほうに放送日や内容などの詳細は周知されていましてでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

市が直接取材に関わっていないものや番組、また再放送などについては、やはり把握していないものもありました。ですので、市民の皆様にも周知できていない部分もあったかと思っております。今後は、各報道機関や観光協会、いろんなところに情報提供を呼びかけて、市民の皆様になるべく多く周知できるように図ってまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

補足して答弁させていただきます。

今、ジオパークのほうで糸魚川真柏の取組もやっている関係から、サンドイッチマンの「博士ちゃん」につきましては、取材の段階から協力したこともありまして、それは事前に情報を頂いておりまして、ジオパーク協議会のSNSと観光協会のSNSで紹介をさせていただいたところであります。

また、このほかにつきましては、番組までとはいかないまでも、映像のロケがあったりということにつきましては、その放送日が分かる段階で、分かる範囲内で情報発信をしておるところであります。そういうものについては、直前になって分かる情報もありますので、できる限り情報発信をしているというのが状況であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

市のほうに取材させてほしいというもの以外のテレビの情報というのは、来ないのでしょうか。

また、取りに行けばもらえるという仕組みになっているのでしょうか。

また、観光のほうのSNSでお知らせをしたということなんですけど、やっぱり今お聞きしていると、市としての一個、観光協会で細分化というよりは、市として発信していくほうが、市民の方には伝わりやすいかなと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

議員おっしゃるように、全てが今、市のところに情報が集まってきている状態ではなくて、各、例えば観光協会さんであったり、それぞれ番組に協力したところで止まっておったりするところもございます。そういうのはやはり市のほうで皆さんから情報提供いただいて、市で一元的に情報発信していくのが形としてはよろしいんじゃないかというふうに今考えておりますので、その辺の情報の収集の仕方も含めて、検討してまいりたいと思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

ぜひ積極的によろしく願いいたします。市民同士の情報交換というのももちろん大事ではあるのですが、市外からの目線で行われているテレビ放映というのは、改めて糸魚川の魅力を知るチャ

ンスであります。放映があることを知らなかったという声も多々聞かれますし、私自身も「あの放送見た」と言われても、知らなかったということが多々あります。

第2次糸魚川市総合計画の中にも、「郷土愛の醸成」というふうに書かれております。テレビ局や報道機関、市内で取材を受けた方などに、糸魚川市のほうから積極的に情報をもらい、いつ放送されますというふうに市民に発信して、市外からの目線で糸魚川を見てもらうことが郷土愛の醸成につながっていくと考えますが、お考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

糸魚川を離れてお住まいの方等が、テレビを通じてふるさとの近況を知っていただいたり、懐かしんでいただいたり、また、新たな市の魅力を知っていただくことによりますことが、郷土愛の醸成であったり、ふるさと回帰につながるものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

今後、市が知り得る糸魚川市に関するテレビ放映の情報を、ぜひ積極的に市民に周知していただくようにしていただきたいです。

先ほども話したSNSを活用した情報発信も含め、今よりも多くの方に的確に情報を届けることを目的とした新しい課の設置のお考えはありますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

情報発信だけでなく、これからの行政の推進に当たってのデジタル化の推進や、IT活用も含めて、組織全体として見る中で、検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

ぜひ前向きな検討をよろしくお願いいたします。

1個、ホームページで知らせたからオーケーとかではなく、皆さんに的確に情報が届くことが最終目標であり、目的だと思いますので、ぜひあらゆる手段を使って情報発信のほうをよろしくお願いいたします。

最後、官製談合事件についてです。

県警は見返りや金品のやり取りがなかったためか、贈収賄容疑での立件を見送る方針という報道がありました。市民の方からは、金品などのやり取りがなかったのなら、なぜ業者に予定価格を教えたのかとの声も聞かれております。過去の工事も高い落札率であることから、糸魚川市として慣習的に談合が行われていたのではないかと市民の声も聞かれ、不信感も高まっております。

今後、第三者委員会を設置するとのことなので、ぜひ、二度とこのようなことが起きないように、再発防止のほうを図ってください。

そして、その委員会で検討された内容や、出てきた事実は、市民に隠さず公表し、市民の信頼回復に全力で努めることが責務だと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

おはようございます。

まず、いわゆる第三者委員会の中で、再発防止対策について、十分にご検討、ご議論をいただきまして、その提言に基づきまして、再発防止策を市としても進めていくということが重要だというふうに思っております。

また、委員会につきましては、原則、その会議自体、個人情報に関わる部分等があれば、一部非公開になる場合もございますけれども、原則公開ということで進めさせていただきたいと思っておりますし、その議事についても、今ほど申し上げました個人情報に係る部分以外については、原則公開・公表ということで、委員会の運営を進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

しっかりと徹底した調査がされたんだというふうに、市民の方が実感できることが重要かと思っております。市民の信頼回復、再発防止に全力で努めてください。

以上で、私の質問を終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、阿部議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

暫時休憩いたします。再開を11時といたします。

〈午前10時51分 休憩〉

〈午前11時00分 開議〉